

2023-24年度 Weekly Report



世界に希望を生み出そう

例会日 毎週火曜日 12:30-13:30
例会場 トヨタ博物館「小ホール」
事務局 長久手市塚田 512 カーサ藤が丘 203
TEL:0561-64-5446 FAX : 0561-64-5459
Mail : a.nagakuterc@aurora.ocn.ne.jp
会長 伊藤 広治 / 幹事 小笠原多恵 / 広報 富田 盛義



本日 第 903 回 2023 年 10 月 3 日(火曜日)

- ・点鐘
- ・ロータリーソング
- ・会長挨拶
- ・委員会報告
- ・幹事報告

行事予定「委員長会議報告」
於：ぎやうりいかふえ華野

前回 第 902 回例会 2023 年 9 月 26 日 (火曜日)

ガバナー補佐訪問例会

会員総数 16名 出席者 14名 出席率 87.50%
トヨタ博物館 小ホール

【会長挨拶】



会長 伊藤 広治

本日は津坂ガバナー補佐、光岡地区副幹事、小塚分区幹事にお越し頂きました。卓話、クラブ協議会お世話になります。

9月も最終例会で次回からはもう10月です。10月になりますと長久手市では警固祭という愛知県指定無形民俗文化財のお祭りが開かれます。オマントと呼ばれる標具等を背中に乗せて着飾った馬を鉄砲隊、棒隊が警護しながら隊列を組んで神社に奉納するという祭事です。私たちのクラブのバナーの絵がこのオマントになります。

今年は長湫地区のお祭りになりますが、上郷地区、岩作地区の三地区持ち回りで行われます。私のデビューは34年前の町生20周年の時で長久手市の全部の火縄銃が今の文化の家のある場所に集まり、一斉発砲する壮大なものでした。ただ一日中市内を駆け廻り相当疲れましたが。

僕はお祭りが大好きです。今日お見えの分区幹事の小塚さんとは阿波踊り、小原風の盆、青森ねぶた祭りなど一緒に観に行かせていただきました。その土地、その場所ならではの神事があって、風習や歴史があって、その町の熱気があって地域の特色や個性があり楽しいです。ロータリークラブも各市それぞれのかかわりを持って特色を出した事業が行えたらと思います。

本日もよろしくお願ひします。

2023-24 年度 Weekly Report

【ニコボックス】

東尾張分区最後のガバナー補佐訪問になります。 張り切って全力で出し切ります。	ガバナー補佐 津坂 守英 分区幹事 小塚 美知子
本日、東尾張分区最後のガバナー補佐訪問です。お世話かけますが宜しくお願い致します。	地区副幹事 光岡 主税
津坂ガバナー補佐、光岡地区副幹事、小塚分区幹事をお迎えして	伊藤 広治
津坂ガバナー補佐、光岡地区副幹事、小塚分区幹事ようこそお越しくださいました。ご指導宜しくお願い申し上げます。	丹羽 司一
津坂ガバナー補佐、光岡地区副幹事、小塚分区幹事ようこそ 本日、お忙しいところ愛知長久手 RC に来て頂きありがとうございます。	大島 昭夫
津坂様、卓話宜しくお願い致します。光岡様、小塚様、宜しくお願い致します。	日野 典子
本日も宜しくお願い致します。	田中 信子
津坂様、光岡様、小塚様、本日は宜しくお願い致します。	伊藤 真
津坂ガバナー補佐、光岡地区副幹事、小塚分区幹事ようこそお越しくださいました。ご指導の程、宜しくお願い致します。	山田 文明
津坂様、光岡様、小塚様、本日は宜しくお願い致します。	松澤 章人
津坂ガバナー補佐、光岡地区副幹事、小塚分区幹事ようこそおいで下さいました。皆様、宜しくお願い致します。	神谷 恵理
津坂ガバナー補佐、光岡地区副幹事、小塚分区幹事ようこそお越し頂きました。本日は宜しくお願い致します。	青山 和成
本日も宜しくお願い致します。 “凄いプロ 素敵なプロにワープロは PR 先を行く者 良い関係者！”	小谷 恒夫
津坂様、光岡様、小塚様、本日は宜しくお願い致します。	小笠原多恵
本日は宜しくお願い致します。	浅見 明人
本日も宜しくお願い致します。	富田 盛義

「ガバナー補佐卓話」

2023-24 年度 東尾張分区ガバナー補佐 津坂 守英 様



当年度東尾張分区ガバナー補佐 津坂守英です。どうかよろしくお願いたします。

ゴードン R. マッキナリー 2023-24 年度 RI 会長の掲げるテーマは「世界に希望を生み出そう」です。まずは平和の構築に主眼を置くことで、その土壌の上に希望を根付かせることができると訴えておられます。そして他の人を助けることが自身のメンタルヘルス向上につながることも言及しています。

酒井法丈当地区 2023-24 年度ガバナーの地区方針は「培おうプライド、育もうブランド、そして未来へ」。ロータリアンとしてのプライドを堅持し、ロータリーというブランドイメージを

2023-24 年度 Weekly Report

地域社会において高めることで、未来に向かって着実に歩みを進める礎にしようというメッセージが込められています。今年度ガバナー特別賞は有意義な事業活動を行なった上で、米山記念奨学事業として一人平均 2 万円以上の寄付、クラブ特別寄付率 80%以上の達成をしたクラブが対象となります。是非挑戦して下さい。ガバナーからのお願い事項は以下のものです。

1. 充実した例会運営
2. コロナ前に会員数を戻す
3. MY ROTARY を活用し、クラブセントラルに明確な目標を立てる
4. 地区補助金を有効に使った奉仕活動
5. 米山や青少年交換等、積極的に受け入れる土壌を作る
6. ポリオ根絶キャンペーンをクラブ単位で行う
7. 地区大会への登録、参加
8. 国際大会（シンガポール）への参加



さて、これからはロータリー創成期の流れをある一面から遡ってみることにします。

1935 年、ロータリー創始者ポール・ハリスは、実は日本を来訪しているのです。当時の帝国ホテルの庭に月桂樹の苗木を植樹されました。クラブ創設の理由を問われた時、寂しかったからと率直に答えられています。

それからほぼ 20 年後、四つのテストを提唱したハーバート J. テーラーも来日されています。岐阜ロータリークラブによって岐阜公園に寄贈された四つのテストの銘板の前で記念撮影を受けた写真が残されています。ご承知の通り四つのテストは元々経営理念を示したものであり、商工会議所でのテーラーの話に感銘を受けた他のロータリアンがいたことでロータリーに取り入れられることになりました。

さて、ロータリーは様々な変化をしつつ規範も大きく緩和されることになりました。毎週必ず出席する義務はなくなり、ひと月に 2 回以上の例会開催でよく、メーキャップもその年度の中で済ませればいいのです。オンラインによる例会開催も許され、包括する職業範囲でも社会奉仕活動も対象となりました。こういった今の状況に戸惑いはないでしょうか。

創成期においてポール・ハリスはことあるごとに寛容の精神の大切さを説いています。現在 RI は DEI（多様性、公平さ、インクルージョン）という新しいテーマを掲げるようになりました。その内容をよく読み込めば、実はそのどれもが寛容の精神に収束していくことが理解できます。ただポール・ハリスの時代に比べ現代では寛容であるべき範囲が拡大化、複雑化しているためにこのようなテーマを掲げる必要が出てきたと捉えればいいのです。

まず伝えたいことは、Rotary は楽しい場所ではなくてはならないということです。親睦と奉仕が Rotary の両輪とは言われますが、親睦が前提とした上での奉仕と考えます。そうでなければ、いくら奉仕の大切さを説いてもメンバーの心に届くことはありません。

その為には親睦にもメンバーが心得るべきルールがあります。

1. いばらない
2. おこらない
3. 否定しない
4. 相手の心を傷つけない

Rotary では取引上の利害関係はほとんどなく気さくに周り話し合える良さがあります。そのためなおさらこういったルールを全員がわきまえておく必要があるのではないのでしょうか。

さて、皆さんは何のために奉仕するのかと問われてどう答えますか。Rotary 創設当時のアメリカでも同じ思いを抱いたロータリアンが多く存在しました。当初のクラブの目的は、親睦、取引の相互支援にあったからです。その為クラブメンバーが納得できるだけの奉仕に対する哲学、もしくは指針が必要となりました。

2023-24 年度 Weekly Report

その苦心のあとがロータリー章典に残されています。1923年の社会奉仕に関する声明がそれであり、「Rotaryは人生哲学である」としています。続けて

1. 自ら利益を得たいという欲求
2. 他者のために良きことをすべきという義務感
3. 同じく他者のために良きことをしたいという願い

心にある三つの葛藤を鎮め調和させる哲学であり、それが奉仕の哲学だということです。

そこには二つの標語があり、ひとつはフランク・コリンズ原案による Service Above Self 「超私の奉仕」。もうひとつが皆さんよく耳にされるアーサー・フレデリック・シルドン原案による「最もよく奉仕する者最も多く報われる」。でも正式文書である英文は「One profits most who serves best」であり、厳密に言えば「報われる」とは言っていないのです。英語の原文をネイティブの立場で表現するなら、「最も利益を稼ぐ人は最も優れた奉仕を実践している」となります。当時イギリスのロータリークラブがこの標語は撤廃すべきだと唱えました。Profit（お金を稼ぐ）は品がないというのが理由で。しかし元々この標語はシルドンの提唱していた経営理念を奉仕の哲学に転用したもので、奉仕の世界でもりつぱに通用するといつてよく、今でも撤廃されずに残されています。当時の日本のロータリアンもこの英文を訳すとき profit が気になったようで「報われる」としましたが、かえてこれにより日本人にとって受け入れやすい標語に変貌したと思います。ここが日本人のすばらしさであり、単にアメリカの奉仕哲学をそのまま鵜呑みにせず、日本に適合するようにアレンジして取り入れたと言えます。ただどちらにしても職業において奉仕の意識を忘れないことが肝要だと説いているのです。

さて何の為奉仕するのかを再度自分自身に問うことにします。これまでロータリー創成期である原点を覗いたことで、ロータリーの奉仕の思想は職業奉仕に基づいていることが分かりました。職業に臨む時、周りに奉仕する気持ちを忘れないことが自分の職業を更に発展させることに繋がり、究極的には奉仕は自分の為といえます。元々Rotaryは個人の成長に焦点を当てていたのです。一方で、ある意味職業奉仕は難しい面も持ち合わせています。何故なら相手から対価を受け取る行為が含まれるからです。その際、先に述べた三つの葛藤を鎮め調和させているかを自らに問う必要があります。そういった姿勢を元に奉仕事業に臨んでほしいという願いが先の奉仕哲学に込められているのではないのでしょうか。当然奉仕事業は相手から対価を求めません。その中で様々な困難に出会うことがあるかもしれません。迷いが生まれたなら、もう一度原点に戻って奉仕をする意味を見出す姿勢が不可欠といえます。現在ロータリーにも様々な変化が訪れています。そのような変化に心惑わず対応するには、ふたつの「しんか」が求められます。まず原点を見つめ自分なりに考えを深めしっかり根を張る「深化」。そしてその上で新しい変化を受け入れる「進化」です。RIは職業奉仕を起点に現在は五大奉仕へと拡大し、特に人道支援に大きく舵を切っていますが、あくまでも全世界に向けて共通のメッセージを送らざるを得ません。ロータリーの原点を踏まえながら、「profit」を報われるとした先人のロータリアンのように、日本人にとって相応しい形にアレンジしつつ変化を取り入れる知恵が求められています。

